



これからの学術情報システム の方向と課題

これからの学術情報システム構築検討委員会

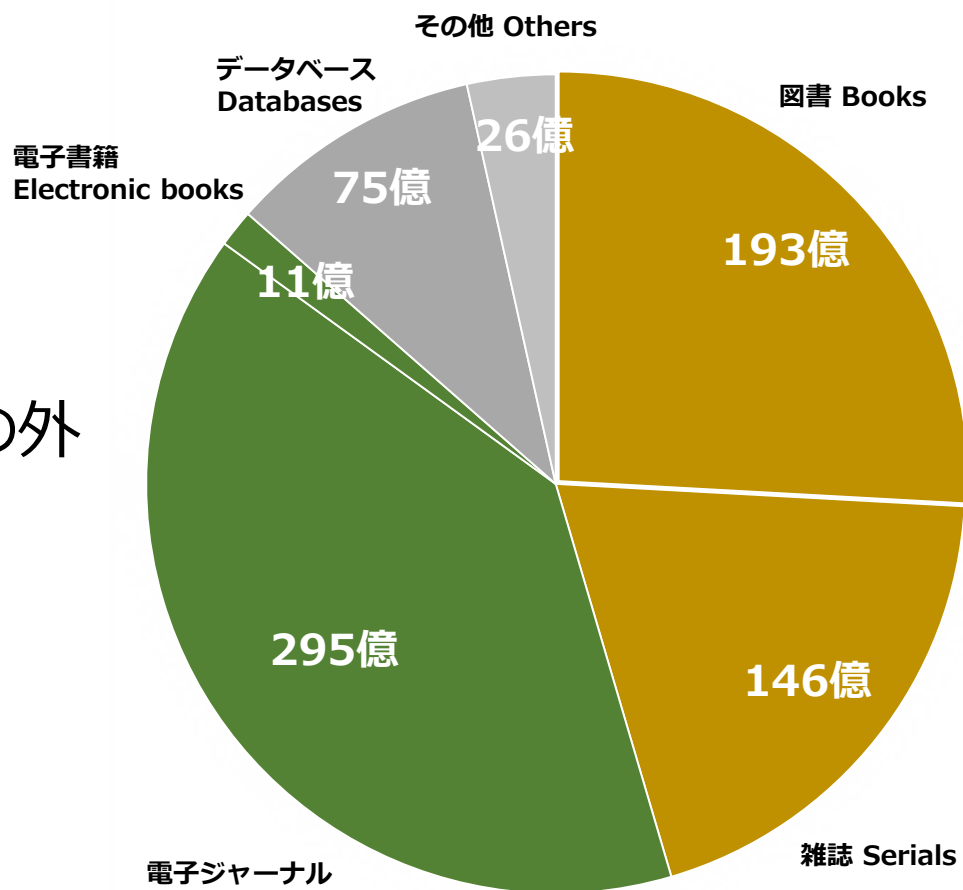
2017年10月2日 (札幌)
13日 (福岡)
12月1日 (京都)
8日 (名古屋)
20日 (東京)

目次

- はじめに
- これからの学術情報システム構築検討委員会の検討の経緯
- これからの学術情報システムの方向と課題

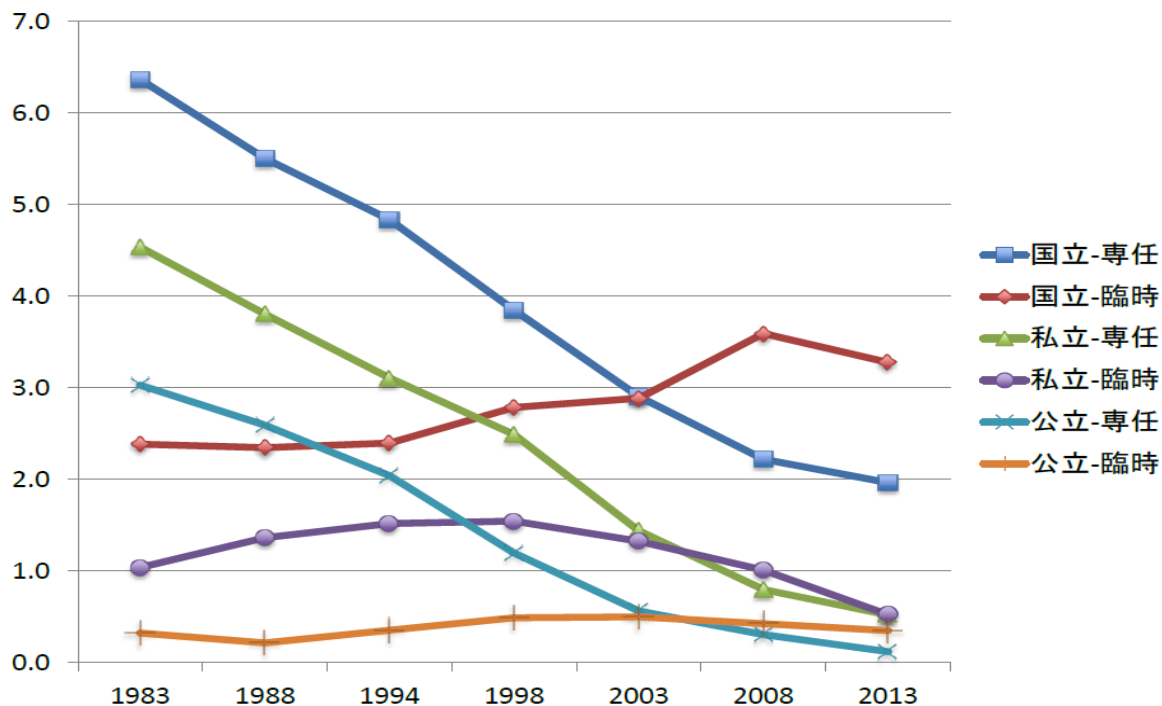
電子資料の普及

電子ジャーナル・電子書籍
306億はNACISIS-CAT/ILLの外
↑
リソースの有効活用/共有が
できていない

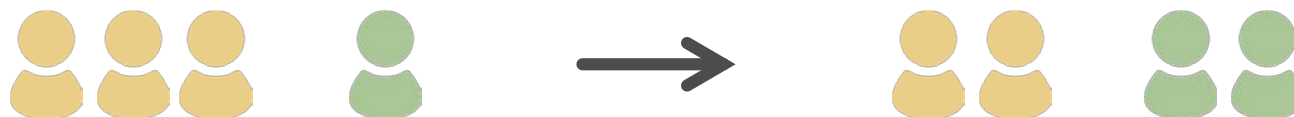


平成28年度学術情報基盤実態調査より作成
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Xlsdl.do?sinfid=000031556945>

大学図書館における目録担当者数の推移



1大学あたりの
平均人数



目次

- はじめに
- これからの学術情報システム構築検討委員会の検討の経緯
- これからの学術情報システムの方向と課題

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所と
国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する
協定書

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（以下「甲」という。）と国公立大学図書館協力委員会（以下「乙」という。）は、包括的な連携・協力の推進にあたり、次のとおり協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲及び乙が、総合目録データベースの構築、機関リポジトリの推進、教育研修などの事業を通じて構築してきたこれまでの連携・協力関係を踏まえ、昨今の学術情報の急速なデジタル化の進展の中で、我が国の大学等の教育研究機関において不可欠な学術情報の確保と発信の一層の強化を図ることを目的（以下「本目的」という。）とする。

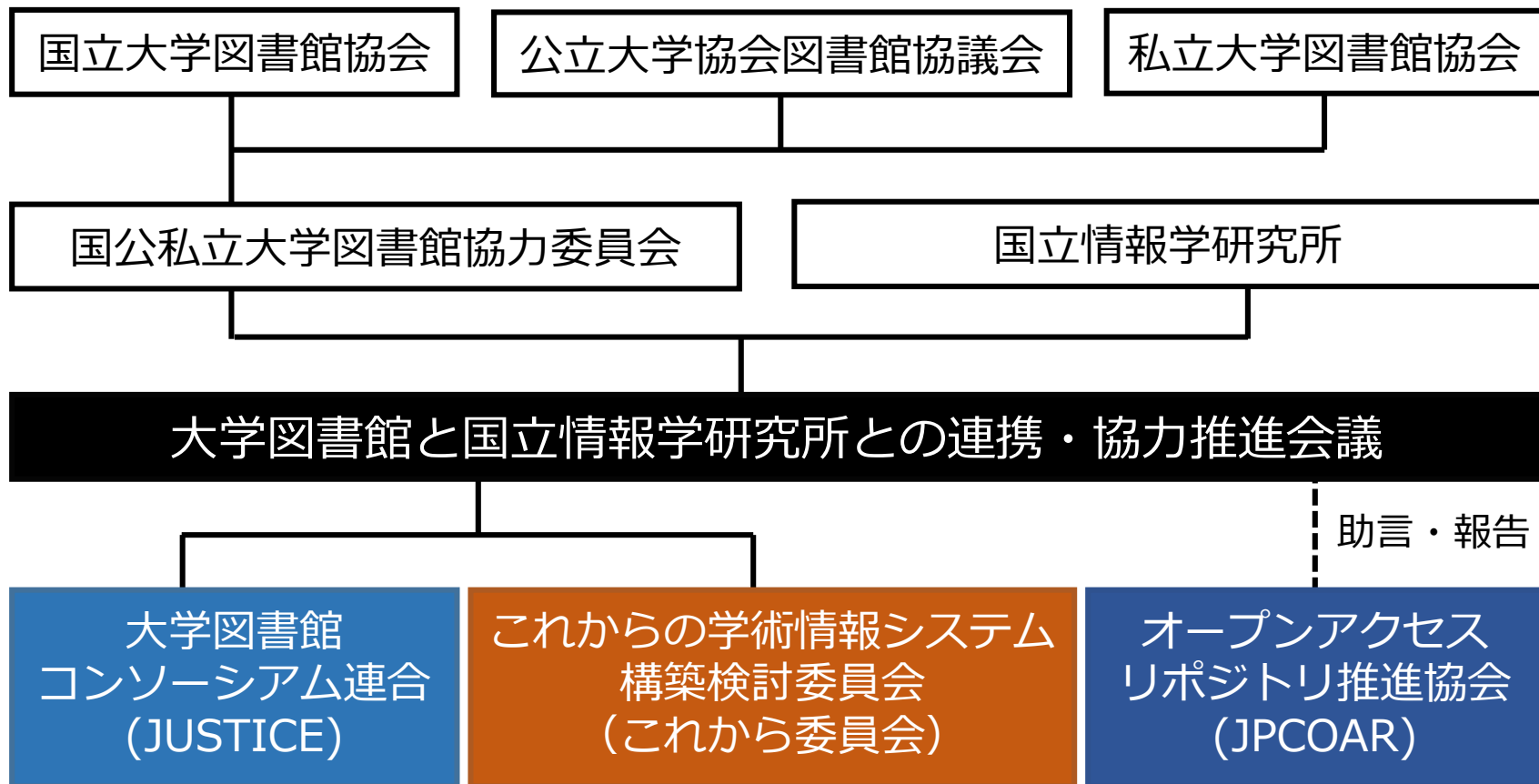
(連携・協力の推進)

第2条 甲及び乙は、本目的を達成するために、次の事項について連携・協力を推進する。

- (1) バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備
- (2) 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
- (3) 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
- (4) 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
- (5) 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進
- (6) その他本目的を達成するために必要な事項

2 前項の事項について連携・協力を進めるために、甲及び乙は大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議を設置する。また、必要に応じて、この会議の下に、具体的な調査・検討及び事業等を実施するための組織を設置することができる。

検討体制の概要



（“オープンアクセスリポジトリ推進協会の概要”（https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=38）等を参考に作成）

大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）

- (1) バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）

- (2) 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築

これからの学術情報システム構築検討委員会（これから委員会）

- (3) 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化

共通

- (4) 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
- (5) 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進

これから委員会における検討の経緯

	委員会	電子リソース	目録システム
2012	委員会設置	ERDBプロトタイプ構築プロジェクト (-2013)	
2013			
2014		電子リソースデータ共有WG	
2015	「これからの学術情報システムの在り方について」	電子リソースデータ共有作業部会 ERDB-JP公開	NACSIS-CAT検討作業部会 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」
2016			「基本方針」
2017		「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について」	「実施方針」

検討にあたっての材料

「電子環境下における今後の学術情報システムに向けて」(2011.11)
(国立大学図書館協会 学術情報委員会 学術情報システム検討小委員会)

学術情報システムの諸課題を次の3つの観点で整理

- 1) 電子ジャーナル所在情報の共有
- 2) 大学図書館システム
- 3) 学術情報システムを支える組織と人材育成

「電子的学術情報資源を中心とする新たな基盤構築に向けた構想」(2012.3)
(国立情報学研究所 学術コンテンツ運営・連携本部 図書館連携作業部会)

「今後の基盤構築の方向性および原則」を次の3点に集約

- 1) 電子情報資源の確保
- 2) メタデータのオープン化と相互接続性（相互運用性）の確保
- 3) 統合的発見環境とシステム基盤

2012-2014年の検討結果（課題のまとめ）

項目	内容
全体	「総合的発見環境」の定義、大学図書館および NII 等の電子的コンテンツの整備、メタデータのライセンスの整理と提供方針の策定、大学図書館・NII・NDL等の協力体制の確立など
電子リソース	ERDB収録範囲の検討(および優先度づけ)、大学(および JUSTICE)と協力した運営体制の確立、電子情報資源の統計情報など
目録システム	NACSIS-CAT/ILLに係るガバナンス、NACSIS-CAT/ILLの理念の再考、メタデータ・フォーマットの検討/RDA への対応、NACSIS-CAT/ILLのシステムの再編、目録にかかわる研修の再編、貴重図書・特別コレクション等の電子版への対応、相互運用性の確保(システム基盤、CAT-Pプロトコル、書誌階層等)
デジタルイズ	既存資料の電子化の意義と効果の検証、和書・和雑誌の電子化、デジタル情報に対する永続的アクセス・長期保存

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

平成 27 年 5 月 29 日

これからの学術情報システム構築検討委員会

これからの学術情報システムの在り方について

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に設置された本委員会では、標記に係る状況を以下のように捉え、特に NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化を最重要課題として、国公立大学図書館等が国立情報学研究所と連携して解決していくための方策を検討している。

1. 取り巻く環境の変化

学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」(1980年)を受け、1985年に総合目録データベースの形成と図書館間相互利用を目的とする「目録所在情報サービス」の運用が開始されて以来、今日までに学術情報を取り巻く環境に

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

2. 進むべき方向性

これからの学術情報システムに求められるのは、**ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境**であり、これらを実現するために、以下の3点を推進する必要がある。

- (1) 統合的発見環境の提供
- (2) メタデータの標準化
- (3) 学術情報資源の確保

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

(1) 統合的発見環境の提供

電子情報資源・印刷体を区別することなく統合的に発見し、さらに、最終的に必要とする学術情報にアクセスできる環境を構築する

(2) メタデータの標準化

標準化されたメタデータを利用することで、以下を推進する。

- ① 学術情報の発見可能性の強化
- ② 他機関(出版者, NDL, OCLC等)との連携による、メタデータの標準化と相互利用

(3) 学術情報資源の確保

従来の印刷体に加えて幅広く電子情報資源を確保するとともに、過去の資料の電子化を推進し、活用を図る。

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

1. 取り巻く環境の変化

学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」(1980年)を受け、1985年に総合目録データベースの形成と図書館間相互利用を目的とする「目録所在情報サービス」の運用が開始されて以来、今日までに学術情報を取り巻く環境には様々な変化が起きている。特に、電子ジャーナルをはじめとした電子情報資源の普及によって、資料の流通・管理のあり方が大きく変貌したこと、また研究者、学生の情報利用や研究・教育のプロセスがますます電子的手段を前提とするものになっていることへの対応が急務となっている。

NACSIS-CAT/ILLを中核とした従来のシステムの軽量化・合理化を図りつつ、そうした変化への対応を行えるシステムの整備を目指す必要がある。

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

つまり

電子情報資源 (= 電子リソース) の管理・共有を適切に行うためには

NACSIS-CAT/ILL等従来システムの軽量化・合理化を図りつつ、変化に応じたシステム整備が必要

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

3. 本委員会の当面の課題

(1) 電子情報資源のデータの管理・共有

電子リソースデータ共有作業部会 (飯野勝則主査)

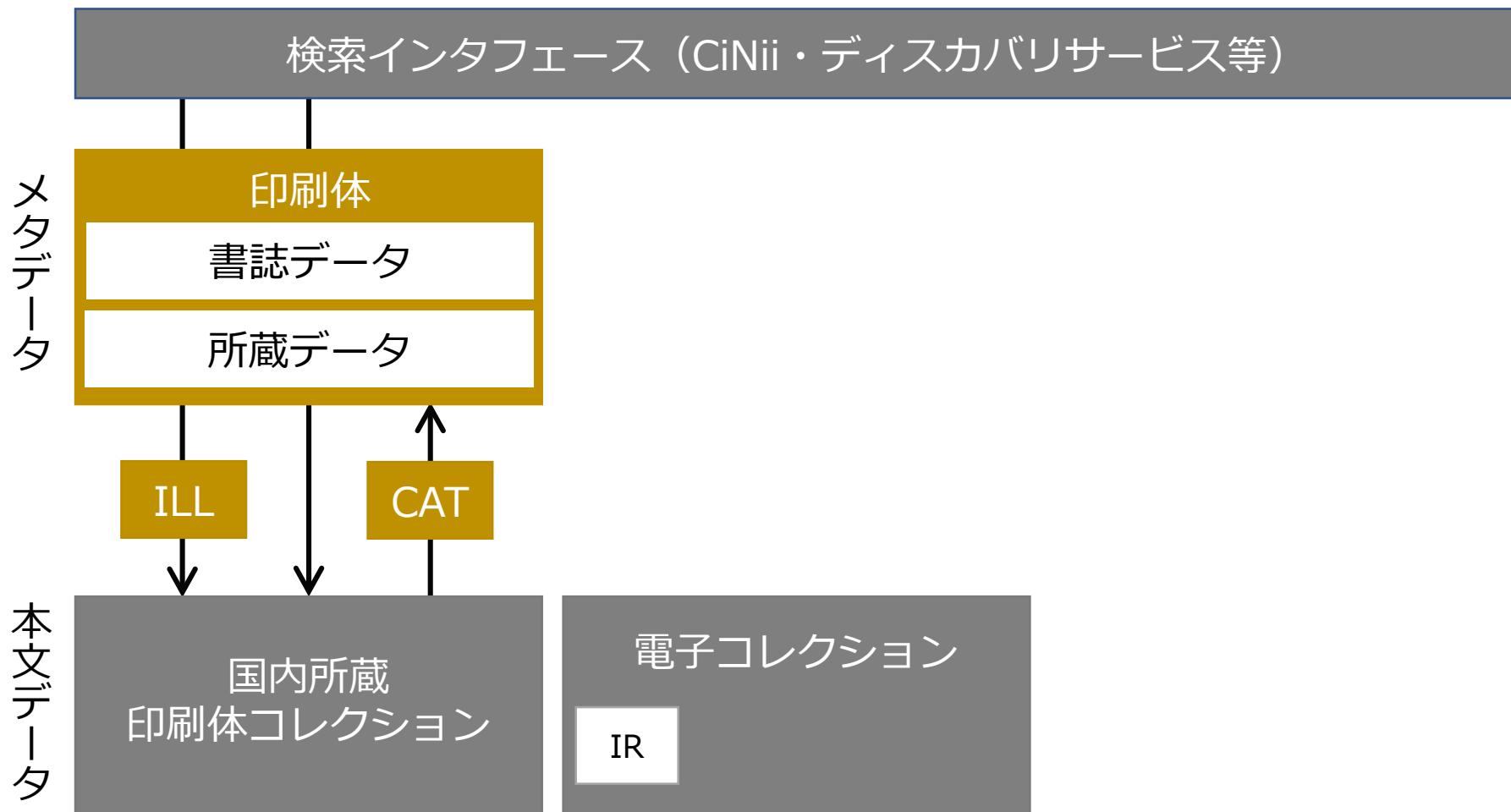
(2) NACSIS-CAT/ILLの再構築 (軽量化・合理化)

NACSIS-CAT検討作業部会 (三角太郎主査)

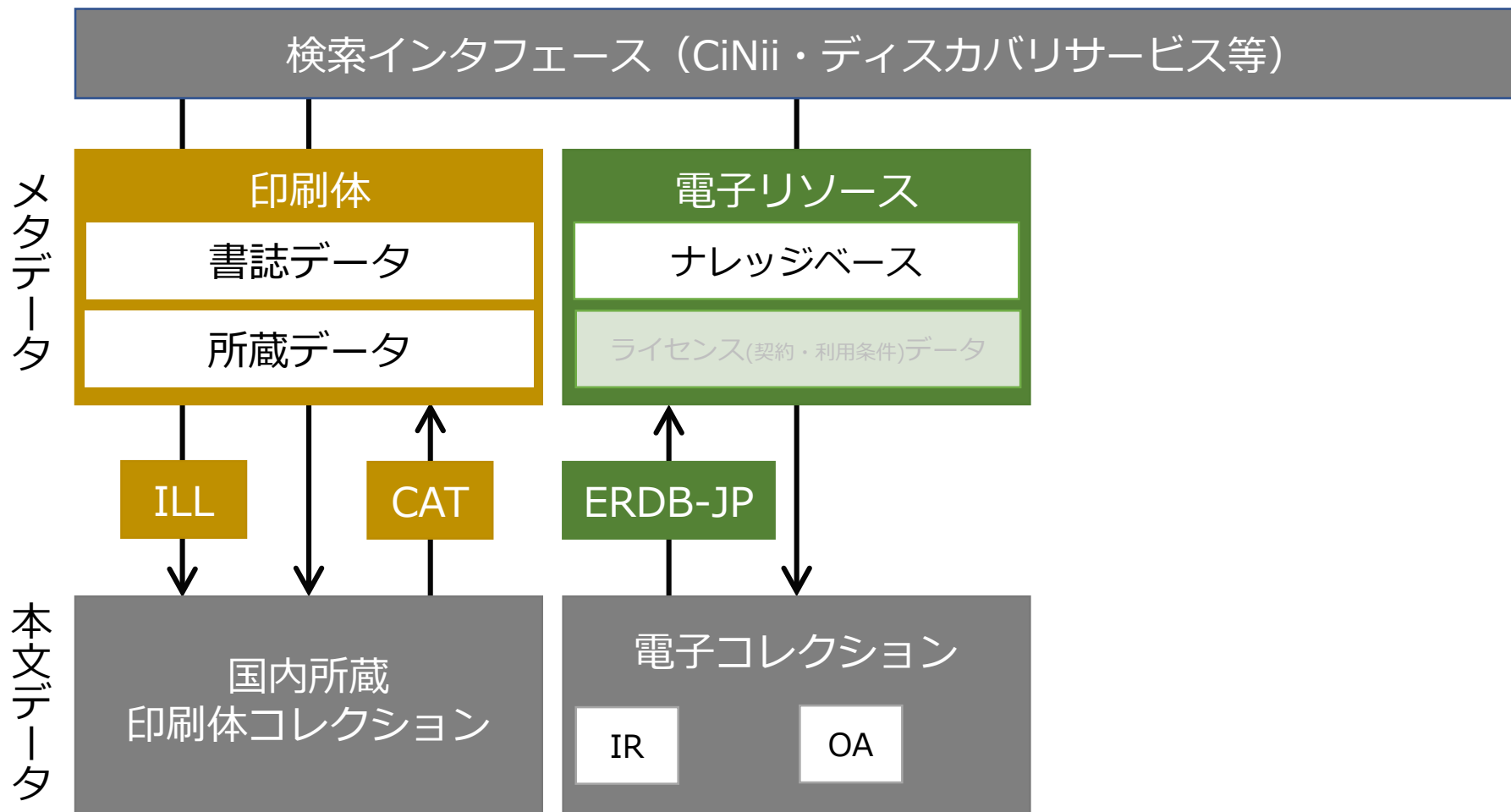
目次

- はじめに
- これからの学術情報システム構築検討委員会の検討の経緯
- これからの学術情報システムの方向と課題

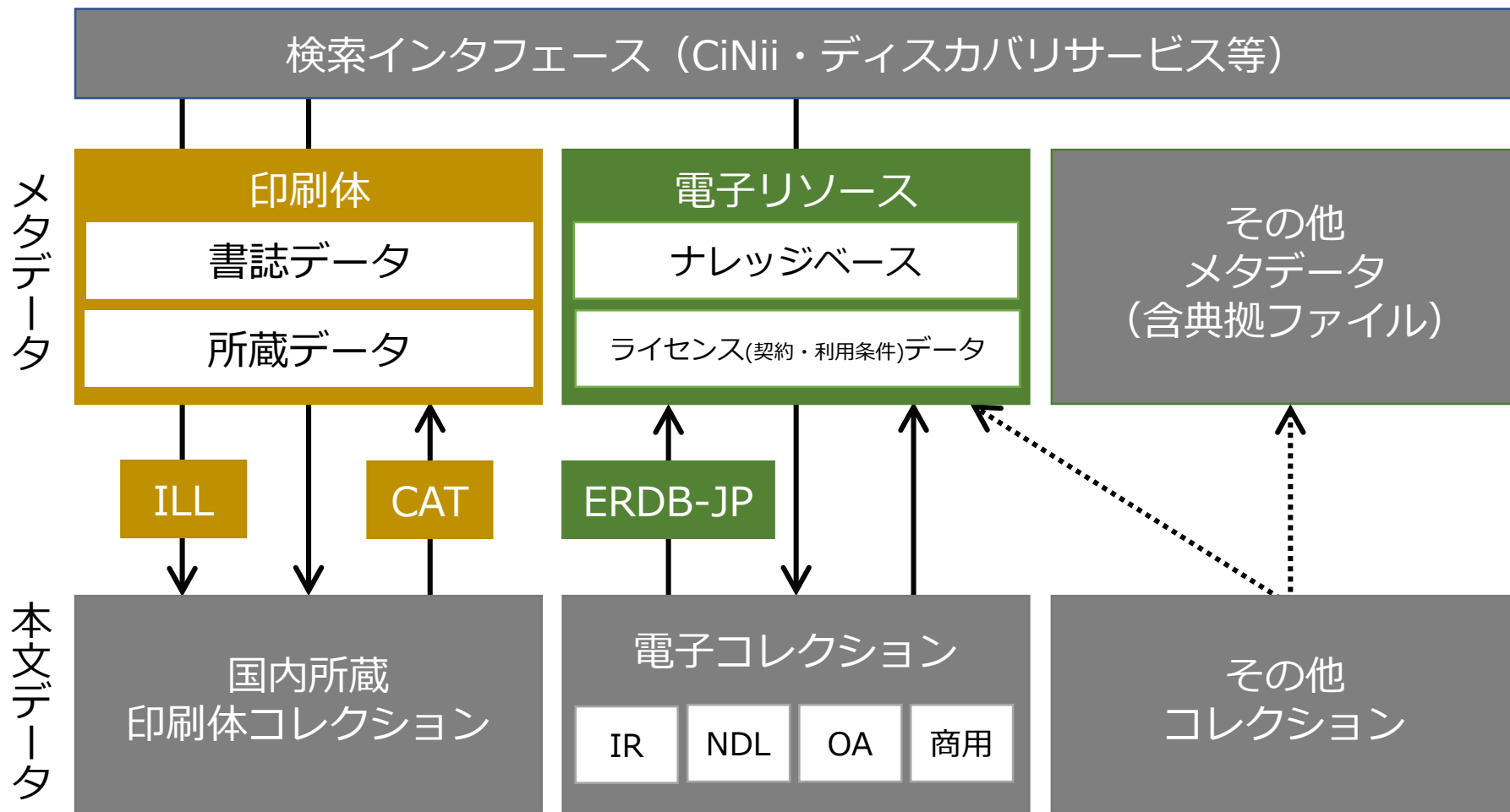
これまでの学術情報システムの方向と課題



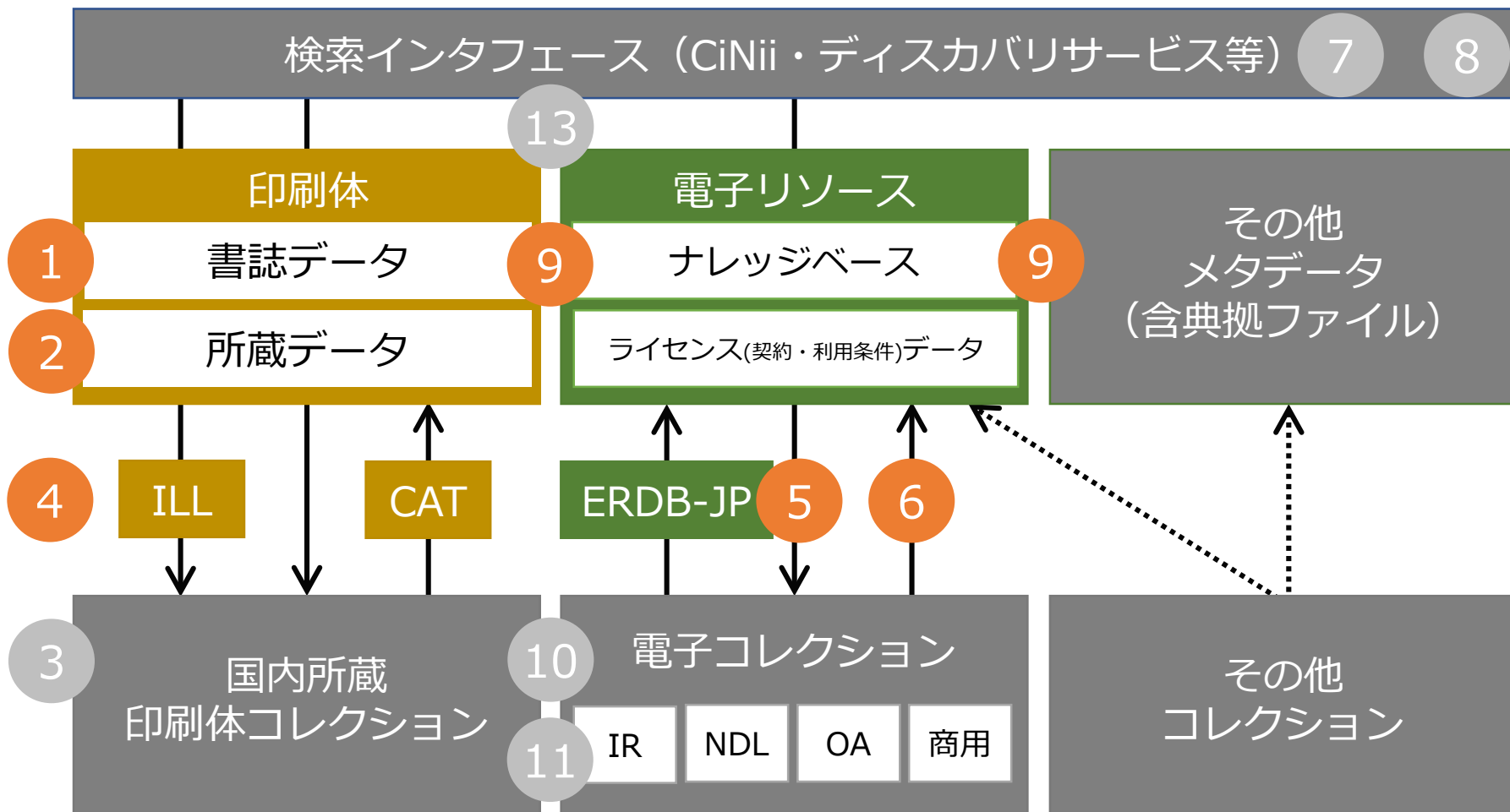
現在の学術情報システムの方向と課題



これからの学術情報システムの方向と課題



12 これからの学術情報システムの方向と課題



課題

(1)統合的発見環境の提供

- NACSIS-CATの位置付け
 - ①共同分担目録：書誌データの利活用への参加／不参加
 - ②資源共有：所蔵データの利活用への参加／不参加
 - ③共同保存・利用（Shared Print）
- NACSIS-ILLの位置付け
 - ④紙から電子への移行
- 国内コンテンツのメタデータの捕捉
 - ⑤ERDB-JPの整備・運用
- 商用コンテンツのライセンスデータの管理・共有
 - ⑥JUSTICEとの連携

課題

(1)統合的発見環境の提供

- 検索インターフェースの拡張
 - ⑦CiNiiはどこまでを対象とするのか
 - ⑧API公開

課題

(2)メタデータの標準化

- 相互利用
 - ⑨メタデータのオープン化

(3)学術情報資源の確保

- デジタイズ
 - ⑩印刷体資料の電子化
 - ⑪電子コレクションのアーカイブ対応

(4)その他

- 協力体制
 - ⑫大学図書館、NII、NDL
- ⑬ログデータの活用

ご清聴ありがとうございました

これからの学術情報システム構築検討委員会